

6月4日 ユースフォーラムのご報告
慶應義塾大学法学部政治学科2年 伊達佳内子

皆さま、ごきげんよう。慶應義塾大学法学部政治学科2年の伊達佳内子でございます。
昨年の第11回 ANNUAL YOUTH FORUM では、日本代表パネリストを務めさせていただきました。
わたくしからは、昨年の FORUM 全体の振り返りを、短くご報告申し上げます。

昨年、2015年は、戦後70年の節目の年でございます。そのことを念頭に、第11回 ANNUAL YOUTH FORUM ではテーマを“Imagining Our Future ~Mutual Vision for the next two to three decades~”といたしまして、高円宮妃殿下ご臨席のもと、アメリカ、ドイツ、中国、イラン、日本の5カ国の代表がパネリストとして登壇いたしました。モデレーターは上智大学の植田真衣さん、MCは慶應義塾大学の橋本萌さんが務めました。

今回の各国のパネリストは、日本代表の伊達が歴代最年少の学部1年であったことを除きまして、皆、其々の国でITやエネルギー問題を研究し、現在日本の大学院に留学している、あるいは研究室に在籍している方々です。

我々パネリストは、現代社会が抱える問題と各人の問題意識や研究テーマに「テクノロジー」を軸にして切り込んでみよう！そして、そこから、自身が想像する20年、30年後の世界を語り、未来への提案を意見として発表しよう！
そう決めて、これに取り組みました。

バーデン=ヴュルテンベルク Cooperative State University でコンピューター科学を研究しているドイツ代表の Jana-Kira Schomber さんは、ソーシャルネットワークとインターネット翻訳の未来について発表しました。復旦大学で国際政治を研究し、現在慶應義塾大学大学院に在籍している 中国代表の Huang Bei さんは、政府とITの関係性と、e-governmentの展望について発表しました。

イラン代表パネリストの、Mohammad Saber さんは、現在、東京工業大学の研究所でバイオ燃料の研究をされています。Saber さんからは、ご専門のバイオ燃料を活用した持続可能なエネルギーの未来図についての提言がありました。

また、インディアナ大学で国際政治を研究され、現在東北大学の研究所で研究員を務めていらっしゃるアメリカ代表パネリスト Ivan Escamilla さんは、自身の経験をもとに、移民・難民問題の現状と、インターネットを利用した問題改善への可能性を示しました。

そして、日本のパネリスト伊達は、公共衛生問題を取り上げました。発展途上地域における妊産婦死亡率削減のためにITと日本の保健衛生スキルを利用したソーシャルビジネスのアイデアを提案しました。

会場の100人を超えるオーディエンスの皆さまは、パネリストのプレゼンに興味深く耳を傾け、また、熱心にメモなどを取っておられる姿も見受けられ、若者が発信する Mutual Vision への関心の高さが感じられました。

続くパネルディスカッションでは、各分野を跨いだ包括的な意見交換が行われ、それぞれの描く未来予想図について、建設的な議論が展開されました。

オーディエンスの皆さまを交えた質疑応答も、大いに盛り上がりました。

フォーラムの終わりには、高円宮妃殿下より、素晴らしいスピーチと激励のお言葉を賜りました。

そして、フォーラム終了後のレセプションでは、ゲスト、オーディエンスの皆さま、アラムナイの皆さまと学生との親睦が図られ、有意義なひと時となりました。

第 11 回よりその名称を日米ユースフォーラムからアニュアルユースフォーラムと改称致しました本フォーラムでございますが、その名のとおり、日米のみならずアジア、欧州に参加者を拡大し、多様な年代の、様々なバックグラウンドを持つ学生、関係者が集う、他に類を見ないフォーラムです。

国際関係が複雑化し、混迷する今日の社会情勢から鑑みても、このフォーラムの存在意義は大変に大きなものであると感じます。

私にとって、この度の第 11 回 ANNUAL YOUTH FORUM のパネリストという経験は、今後への大きな「自信」となりました。また、Y F J の実行委員会の一員として、ユースフォーラムの成功に向けて取り組んだ経験は、多くの「学び」を与えてくれました。

そして、このフォーラムを創設し、これを支え続けてこられた皆さま方のお志とご努力を肌で感じることもできました。

昨年のユースフォーラムに於いてもそうで御座いましたが、こうしてまた、ゲストの皆さま、先輩の皆さま方の面差しを目の当たりに致しますと、身の引き締まる思いが致します。

それと共に、前列に座って下さっております第 68 回 J A S C 日本代表の皆さん、そして、本日のヘリテージの趣旨に興味をもってココにお集まりくださいました学生の皆さんのお顔を拝見しますと、ほんとうに心強く、これから一緒に未来を作っていけたら良いなと、「期待」の気持ちが膨らみます。

以上が、私からのご報告でございます。御清聴ありがとうございました。